

# The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

April  
ISSUE



April, 2026  
Volume 166

## 自治自立の人民の養成

本年4月より、同志社大学附属・同志社国際学院初等部・国際部の校長を務めさせていただくことになりました。同志社大学経済学部の和田喜彦でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の専門はエコロジー経済学であり、生態系と共存できる「持続可能」な経済システムのあり方を探究することを研究テーマとしております。

近年、SDGsという言葉が広く用いられるようになりましたが、その源流にあたる「持続可能な開発」という概念は、1980年代から用いられてきました。私自身もその頃より、この分野の研究に携わってまいりました。

大学卒業後、東京・虎ノ門の財団法人国際開発センターに勤務し、発展途上国の現場に足を運ぶ中で、「持続可能な開発」とは何かについて深く考えるようになりました。その問いへの答えを求め、カナダへの大学院留学を志し、バンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学コミュニティー地域計画学研究科にて、1990年より約9年半にわたり学ぶ機会を得ました。

同志社の創業者・新島襄と自らを比較するのは誠に僭越ではありますが、新島がアメリカで得た気づきと、私がカナダで得た経験には、通じるものがあると感じております。

封建社会のもとに育った新島にとって、国の政治的リーダーを選挙によって選ぶという仕組みは、「脳みそが頭からとろけそうになる」ほどの驚きでありました。しかし、それ以上に彼を驚かせたのは、市民が政府に対して健全な批判を行うだけでなく、自ら社会福祉団体や私立学校を設立し、行政の手の届かない領域において主体的に「共」的な役割を担っていたという事実でした。

すなわち、市民自らが理想の社会のあり方を考え、知恵と資金を出し合い、行動していたのです。すべてを政府という「公」的機関に委ねるのではなく、自ら責任を

引き受けて社会を形づくろうとするその姿勢には、自治自立の精神が息づいていました。こうした「共助」を担う市民の存在こそが、アメリカ社会の発展を支える源泉であると、新島は見抜いたのです。

私は、この「自治自立の人民の養成」こそが、同志社建学の精神における「自由主義」の核心であると考えております。それは決して自己中心的な自由ではなく、良心に基づき責任を引き受ける自由であります。

私自身もカナダ滞在中に、同様の姿を目の当たりにいたしました。市民は政府に対して適切な批判と提言を行う一方で、NGO（非政府組織）を立ち上げ、政府の手が十分に届かない分野において主体的に活動していました。途上国支援や国内の社会福祉、環境保護など、その活動は多岐にわたります。また、NGOと政府が協働し、質の高いサービスを提供している姿にも深い感銘を受けました。

さらに印象的であったのは、個々人が良心と信念に基づき、日常生活の中で静かに行動している点でした。たとえば、ある後輩は、大規模倉庫型店舗での購買を避け、地域の中小小売店を利用していました。それは、大型店舗が雇用機会を減少させ、地域の貧困を助長する可能性への問題意識からでした。また別の友人は、ピザ店に自ら容器を持参し、使い捨て容器の使用を避けていました。こうした人々は「エシカル・コンシューマー（倫理的消費者）」と呼ばれています。

同志社国際学院が、崇高な倫理観と良心、そして高い問題意識を備えた「自治自立の人民」を育む場として、ますます輝きを増していくことを心より願っております。

保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動に対するご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年度のご挨拶とさせていただきます。

校長 和田喜彦



## キリスト教 教育テーマ 4月：希望 April：Hope

「イエスは涙を流された。  
ユダヤ人たちは、『御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか』と言った。」

ヨハネによる福音書 11 章 35 節, 36 節 (聖書協会共同訳)

聖書の記述の仕方は小説と違って淡々としており、人間イエスの喜怒哀楽が記されることはめったにありません。「宮清め」と呼ばれる、神殿で商売をしていた人々を追い出す比較的激しい場面でさえ、イエス様の怒りの感情が直接記されているわけではありません。そんな調子で同じく淡々と聖書を読み進めていた読者は、突如現れた「イエスの涙」に面食らうことになります。しかも涙を流す記述の前に、実はこんな風に記されているのです。「イエスは、彼女が泣き、ユダヤ人たちも泣いているのを見て、憤りを覚え、心を騒がせて、…」(33 節)

人間は理不尽なこと、不条理だと感じる事柄に憤りを覚えます。ラザロとその姉妹とはイエス様の弟子でありながら親しい友人のような関係でもあったことが窺われ、その友人の死に対して人の子イエス様が憤りを感じられた、というのは、普通の小説のようにこの箇所を読めば当然のことです。しかしながら、遅かれ早かれ死は万人に平等に訪れるもので、誰もこれを避けて通ることはできません。「土から取られたあなたは土に帰るまで 額に汗して糧を得る。あなたは塵だから、塵に帰る。」(創世記 4 章 19 節。アダムとエバをエデンの園から追放する際に神が言い放った言葉)

神の子ならば、神が定めたこの自然界の掟を誰よりもよく知っているはずですが。それにも拘わらず、イエス様は「死」に対して憤りを感じられました。なぜでしょうか。それは、「死」がこれほどまでに人を苦しめ悲しませて、絶望のどん底に突き落とす現実を目の当たりにして、神の子として黙って見ていられなかったからです。

キリスト教は既存のユダヤ教が「これが人間の運命だ。」と諦めて受け入れるように促してきた教えに物申し、言わば抗った教えでもあります。「死は訪れなければならないが、決してそれが全ての終わりではなく、ここから新しい命が始まるのだ。」これがキリスト教の復活の教えであり、「希望の宗教」と言われる所以です。

新約聖書の福音書は四つあり、書かれた時代も書いた人もバラバラですが、どの福音書にも必ず登場する共通した物語があり、その最も重要なものと位置づけられるのが「十字架」と「復活」です。「イエスが十字架刑に処せられたのは歴史的事実だから理解できるが、復活は弟子たちの願望が後の時代に本当にあった話として確立されていったもので、ここはフィクションだろう。」と一般の読者は考えるかも知れませんが、紛れもない事実である「十字架」と、必ずセットで語られるのが「復活」の出来事です。単なる後継者たちの願望や夢物語ではないからこそ、聖書の中で大切に二千年以上も語り継がれてきた、という点に、ぜひ注目して頂きたいと思います。



写真左:2025 年度 3 年生児童が制作したイースター・エッグ

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓



写真右:イースター・エッグの制作風景

<お知らせ>

2025 年度の「おにぎり献金」の寄付先と献金額のご報告は、春学期中にこの欄にて掲載させていただきます。  
旧年度中の皆さまの温かいご理解とご協力に心より感謝申し上げますと共に、引き続き新年度も「おにぎり献金」をどうぞよろしくお願いたします。

## Unit5「文化や伝統は人々の願いによって作られ、受け継がれる。」

### —グループ活動を通して見えた2年生の学びの輝き—

2年生の子どもたちは、文化や伝統の奥深さに触れながら、人々の願いや思いがどのように形となり、時を超えて受け継がれてきたのかを探究しています。年明けの授業では、節分を題材に、「なぜ節分を行うのか」「どのような願いや思いが込められているのか」をじっくり考えました。子どもたちが経験してきた節分の思い出を振り返りながら話し合う中で、ただの行事として知っていた節分が、人々の心や願いとつながっていることに気づく学びになりました。この理解をもとに、子どもたちは5人1組のグループでオリジナルの「お祝い」を考え、ポスターにまとめる活動に取り組みました。子どもたちはまず図書館で本を選び、必要な情報を見極めながら読み解く時間を大切にしました。デジタル機器で簡単に答えを知ることができる今だからこそ、自分たちで情報を見つけ、考え、まとめる喜びを味わいながら、少しずつグループとしての結論を形にしていきました。意見がぶつかることもありましたが、仲間と話し合いながら役割を分担し、協力してポスターを仕上げる過程は、まさに学びの核心ともいえる瞬間でした。発表当日は、クラス内での発表と他組の前での発表の2回にわたり、聞き手の反応を見ながら声の大きさや伝え方を工夫して発表する姿が見られました。仲間と支え合い、自分の役割を全うしながら学びを表現する子どもたちの姿は、まさに学びの輝きそのものでした。



さらに1月15日には、学校近くの相楽神社で行われる御田祭の見学に出かけました。御田祭は五穀豊穰を願って長い間行われてきた地域の伝統行事で、地域の人々の願いとともに長く受け継がれてきました。子どもたちは神社の境内で行われる祭りの様子を間近で見学し、普段の生活では触れることの少ない伝統文化の息遣いを感じ取っていました。祭りの動きや人々の関わりに目を向けながら、「どうしてこのように行われるのか」「どんな思いが込められているのか」と考えながら観察する姿が印象的でした。この体験を通して、子どもたちは身近な地域に根付く文化や伝統が、何世代にもわたる人々の思いや願いによって育まれてきたことを学び、子どもたち自身もその大切さを考えるきっかけとなりました。今回の探究は、単に知識を学ぶだけではありません。文化や伝統の背景にある人々の思いに目を向け、仲間と協力して自分たちの理解を形にすることで、主体的に学ぶ力や協働する力を養う学びとなりました。

2年生の子どもたちが、この学びの経験を胸に、地域や文化に対して興味を持ち続け、これからの学びや生活に活かしていく姿を想像すると、自然と心が弾むような希望を感じます。



## Starting the Journey: A New Year of Inquiry

Dear Parents,

Welcome to the start of a new academic year! As we begin the new year, our focus this month is on building a strong foundation for inquiry and establishing student-led classroom communities.

### 1. Ownership of the Learner Profile

The beginning of the year is about more than just new routines; it is about setting intentions. In every classroom, students are exploring the IB Learner Profile through the lens of their own experiences. Rather than following teacher-directed definitions, we encourage students to use their agency to decide what these attributes mean to them personally and which they want to lead with this year, whether it is being a Risk-taker in their ideas or more Balanced in their daily lives.

### 2. Student-Led Essential Agreements

A key part of our start-up process is the creation of "Essential Agreements." In the PYP, these are not a list of rules handed down by the teacher. Instead, students take the lead in negotiating how their classroom will function. By deciding for themselves how they will respect, support, and challenge one another, students take true ownership of their environment, ensuring a safe space where everyone feels empowered to take risks in their learning.

#### **How Parents Can Support**

You are an essential part of this journey. This month, try to support your child's growing independence and reflection:

- "How did you and your classmates decide your classroom should work this year?"
- "Which Learner Profile attribute did you choose to focus on, and why does it matter to you?"
- "What is one thing you want to take the lead on in your new unit?"

We are excited to partner with you for another year of discovery, growth, and student-led learning.

Sincerely,

Chris Elsdon PYP Coordinator

## 新たな探究の旅の始まり

保護者の皆様

ご入学、ご進級、おめでとうございます！新しい可能性に満ちた新学期を迎え、今月は探究のための強固な土台を築き、児童が主体となって運営するクラス・コミュニティを形成することに焦点を当てたいと思います。

### 1. ラーナープロフィールへの主体性

年度の始まりは、単に新しいルーチンに慣れるだけではなく、自らの「目標 (Intentions)」を設定する時期でもあります。すべての教室で、児童は自分自身の経験を通して IB ラーナープロフィールを深掘りしていきます。教師から与えられた定義に従うのではなく、児童が自身の「エージェンシー (主導権)」を発揮し、それぞれの資質が自分にとって何を意味するのか、そして今年は何の資質を伸ばしたいかを自ら決定します。たとえば「挑戦する人 (Risk-taker)」になることや、日々の生活で「バランスのとれた人 (Balanced)」を目指すことなどです。

### 2. 児童主導による「合意形成 (Essential Agreements)」

新年度のプロセスの鍵となるのが「エッセンシャル・アグリーメント (合意形成)」の作成です。PYP では、これらは教師から与えられる「ルール・リスト」ではありません。代わりに、児童が主導権を握り、クラスをどのように運営していくかを話し合います。お互いをどのように尊重し、支え合い、高め合うかを自分たちで決めることで、児童は自分たちの環境に真の責任 (オーナーシップ) を持ち、誰もが安心して学習においてリスクを恐れず挑戦できる場を作り上げます。

#### **保護者の皆様のサポート**

保護者の皆様は、この探究の旅の欠かせないパートナーです。今月は、お子様の自立心と振り返る力を次のような問いかけでサポートしてみてください：

- 「クラスをどんな場所にしたいか、みんなでどうやって決めたの？」
- 「ラーナープロフィールのどの資質に注目することにしました？それはどうして？」
- 「新しいユニットで、自分でリードしてやってみたいことは何？」

発見と成長、そして児童が主導する学びに満ちた新しい一年を皆様と共に歩めることを楽しみにしています。

敬具

クリス・エルズドン PYP コーディネーター



# からのおしらせ

## あたらしい出会いのはじまりです

ご入学、進級おめでとうございます。ワクワクする気持ちと同時に、少しの緊張や不安があることでしょうか。そんな時は Library へ来て、ゆっくりと本を読んでみるのはいかがでしょうか。いつでもお待ちしております☆

\*お話の紹介文は出版者のHPから抜粋しています。

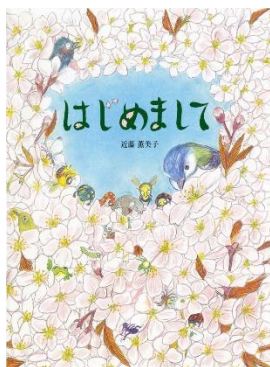
### 『ねこのピートはじめてのがっこう』

エリック・リトウィン作 出版者：ひさかたチャイルド



はじめての勉強に、はじめての給食、そしてはじめての休み時間！ はじめてのことばかりが起きると、誰もがちょっぴり不安になるものですが、ピートも不安でドキドキしているのかな？ いいえ、スーパーポジティブキャットのピートはちっとも不安になんかありません。いつも自分なりの楽しみを見つけて、「かなり さいこう！」と歌を歌います。だって、そこには「新しいものに出会うこと」に対する、ピートの考えがあるのですから……。

### 『はじめまして』近藤薫美子 作・絵 出版社：偕成社



一本の桜の木をめぐるさまざまな「はじめまして」を、豊かに、たからかにかきあげたおおらかな絵本です。

春にさく桜の花、かわらずにめぐってくる春を伝えてくれます。が、同時に、今年咲く花とは「はじめまして」でもあります。そのうれしさ、尊さを、近藤さんが絵本のかたちにしてくださいました。かわりない毎日の中にもかくれている「はじめまして」を描き上げます。

### 『やぎこ先生 いちねんせい』ななもりさちこ文

大島 妙子絵 出版者：福音館書店



春の訪れとともに、山里の小さな小学校にやってきたのは、「先生一年生」のやぎこ先生。さっそく、入学したばかりの一年生子やぎたちと、ハラハラドキドキの一年がはじまります。けれども、事件をおこしてしまうのは、やぎこ先生ばかり。学校に着ていく服に悩みすぎて遅刻したり、夏休みの宿題を出し忘れてしまったり……。でも、八匹の子やぎたちは、元気なやぎこ先生の背中を見ながら、たくましく成長していきます。

## 4月の主な行事・予定

3月20日(金)～4月6日(月) 春季休業日  
4月7日(火) 始業式  
4月10日(金) 入学式

1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	Unit1(week1)始業礼拝(午前授業 / Opening worship service)
8	水	
9	木	
10	金	入学式 / Entrance Ceremony G1 オリエンテーション期間 / Orientation period
11	土	
12	日	
13	月	Unit1(week2) G1 オリエンテーション期間 / Orientation period
14	火	G1 オリエンテーション期間 / Orientation period
15	水	G1 オリエンテーション期間 / Orientation period
16	木	G1 オリエンテーション期間 / Orientation period
17	金	G1 オリエンテーション期間 / Orientation period G1 交通安全教室(3時間目) / G1 Traffic Safety Guidance (3 <sup>rd</sup> period)
18	土	
19	日	
20	月	Unit1(week3) G5 コミュニケーションタイム / G5 Communication Time
21	火	G6 コミュニケーションタイム / G6 Communication Time, G6 推薦進学説明会 / Explanatory MTG of the recommendation
22	水	G4 コミュニケーションタイム / G4 Communication Time
23	木	避難訓練 / Evacuation Drill, G3 コミュニケーションタイム / Reserve day for Evacuation Drill / G3 Communication Time
24	金	避難訓練予備日 / Reserve day for Evacuation Drill, G2 コミュニケーションタイム / G2 Communication Time
25	土	
26	日	
27	月	G1 コミュニケーションタイム / G1 Communication Time
28	火	
29	水	昭和の日 / Showa day
30	木	

## 5月の主な行事・予定

5/9(土) 土曜参観、全体コミュニケーションタイム  
5/22(金) 中間カンファレンス (午前授業) ~27(水)  
5/29(金) 中間カンファレンス (午前授業) (5/28(木)は通常授業)  
5/30(金) 健康診断

